

[LA ことばと発達] 第V章:第3講]

人間発達の可塑性

ことばが遅滞するとき

-養育放棄の中でのことばの育ち-

内田 伸子

(お茶の水女子大学 発達心理学)

教育の原点⇔愛着

ヘレンケラーは
どのように教育されたか

A person wearing a white shirt is shown from the chest down, holding a small green plant with two leaves in their cupped hands. The background is a bright blue sky with white, fluffy clouds. The overall image conveys a sense of care, growth, and nurturing.

ヘレン・ケラー

◆悪条件：**盲聾二重障害**



極端な刺激剥奪
文化的環境の貧困
社会的相互交渉の不足

●悪条件を**克服**：

6歳9ヶ月からのアン・サリバンによる治療教育により言語・知性の遅滞の回復 → 『**奇跡の人**』

♥果たして“**奇跡**”か？

お芝居や映画 **幕切れの場面！？**

心理学が科学であるためには

◆心理学には神話がたくさんある。



神話の呪縛から逃れ、
ウサン臭さを払拭できるだろうか？

●論理的にもものを考える以外にない。

心理学が科学として認めてもらうためには、
とるべき道はそれしかない。

♥そして 原典にあたること。

噂に頼らぬこと。疑うこと。

from 高木光太郎 (2008)

『オオカミ少女はいなかった』新曜社, p.216.

疑い⇔幕切れの場面

★アンサリバンと出会い、物には名前があることに、そしてことばの意味に目覚めていく。

★その契機：井戸水の冷たさに「ウォーター！」と気づく最後の幕切れの場面は感動的
⇒ウィリアム・ギブソンの脚本から

アニー「さあ、汲んで。」(ヘレン、頬に手を当て、自信なげに待つ)

「いいえ、お母さんはいないわよ。汲んで！」

(かづくでヘレンにハンドルを動かさせて、手を離す。ヘレン、服従する。ハンドルを上下させるとやがて水が出てくる。)

アニー、もう一方の手に水差しを持たせ、水の出口に導く。水は半分水差しに流れ込み、半分は外にこぼれて、ヘレンの手を塗らす。

アニー

(代わってハンドルを持ち、水を出しながら、機械的にもう何百回となく繰り返してきた動作、ヘレンのあいた掌に字を綴る。)

「ウォーター。W,A,T,E,R,ウォーター。」

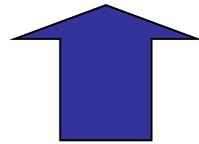
これには名前があるのよー」

(そして、今、奇跡が起きた。ヘレン、水差しを水の出口の板石に落とす。水差しは砕け散る。ヘレン、身じろぎもせず立ちつくしている。アニー、ハンドルを持ったまま凍りつく。日没の照明が変わっていき、その変化とともに、ヘレンの顔にも変化が起きる。観客がかつて見たこともない、ある光が浮かんでくる。るえる。

ヘレンの心の奥深いところで、ある種の格闘が行われている。その唇がわなわなとふるえる。唇のまわりの筋肉が、かつて知っていた何かを思い出そうとしているのだ。そして最後に、それは出口をみつける。いかにも苦し気に、言葉なしに過ごした何年もの生活の堆積に埋もれていた赤ん坊の声がほとばしる)

ヘレン 「ウアー。ウアー。」(そしてもう一度、非常な努力で)「ウアーウアー。」(ヘレン、出の細くなった水に手を突っ込み、自分の手に綴る。それから狂ったように手を突き出してさぐる。アニー、手をさしのべる。ヘレン、アニーの手に綴る。)

からだの奥深く眠っていた感覚が呼び
覚まされて来、散乱する生活の印象と
ふれあい重なりあって突然イメージが
凝縮し、ひとつの「ことば」に結晶してくる



疑問: 澄み切った集中のうちに微妙な
手探りが息づいていてこそ
初めてできることではないか

原点にあたる⇔「奇跡の人」

“The miracle worker”

ヘレン・ケラー（1966）

岩橋 武夫(訳) 『わたしの生涯』 角川文庫

アン・サリバン（1973）

遠山 啓(訳)

『ヘレン・ケラーはどう教育されたか
—サリバン先生の記録—』 明治図書

→(20世紀の古典 by朝日新聞, 1988)

ウィリアム・ギブソン（1984）

額田 やえ子(訳) 『奇跡の人』 劇書房

[自伝] ヘレン・ケラー『わたしの生涯』角川文庫

[書簡] アン・サリバン『ヘレンケラーはどう教育されたか』明治図書

●ヘレンが発達が進んでいたことを示唆する一節 [自伝]

●“ウォーター”がわかった場面のヘレンの内観 [自伝]

●この日のサリバンの書簡 [書簡]

到着1ヶ月後(1887年4月5日)

●「ウォーター！」⇔**第二步**

●**第一步**は何か？ [書簡]

ケラー家に到着した当日(1887年3月6日)

第一步 ⇔ **心理的絆(愛着)**

●奇跡は何を指しているか？ [書簡]

到着2週間後(1887年3月20日)

『奇跡の人』 **奇跡** ⇔ **膝にのるようになったこと**

←**心理的絆(愛着)**

言語は理性と内省の道具

私は決して言語を教える目的のために、
言語を教えていたのではありません。

考えを伝える手段として不断に言語を
用いたのです。

……言語は、子どもたちが理性と内省
に入る扉なのですから。

アン・サリバン

『ヘレン・ケラーはどう教育されたか』(明治図書)135頁より。
朝日新聞 1998年5月1日, 学芸欄に20世紀の古典としても
紹介されている。

19世紀の「二人」の偉人

サリバン先生：生涯をただ一人の弟子，ヘレンに捧げた。

ヘレン：24歳でハーバード大学を卒業。博士号を受けて、その生涯を心身障害者の幸福のために捧げ尽した。

恩師サリバン先生はおのが弟子のためには、太陽である自分をどんなときにも夜空と化し、ヘレンというただ一つの尊い星の光をより輝かせたのである。

サリバン先生が亡くなられたとき、ヘレンは堅く心に近いました。「先生は、自分のような者のために、その一生を捧げきって死んでいかれた。それこそ完全な奉仕の生涯である。残されたわたしこそ、その連続でなければならない。」と。(岩橋, 1963, pp.463-464より)

19世紀の「二人」の偉人

マーク・トウェイン；

ヘレンが24歳でハーバード大学を卒業し博士号を受けたとき

「19世紀には二人の偉人が出た。ひとりにはナポレオン一世であり、いまひとりはヘレンケラーである。ナポレオンは武力で世界を征服しようとして失敗に終わった。しかし、ヘレンは三重苦を背負いながら、心の豊かさ、精神力によって今日の栄誉を勝ち得た」と述べた。

あの素晴らしい愛をもう一度

命かけてと誓った日から

すてきな思い出

残してきたのに

あの時 同じ花を見て

美しいと叫んだ

二人の心と心が

今はもうかよわない

あの素晴らしい愛をもう一度

(精神医学者 北山修)
(ザ・フォーク・クルセダーズ)



愛: 見つめ合い → 同じものを見 →

経験を共有し → 同じ価値観に立つ

てとてとてとてと

うちだ のびる・わく

(11007年四月一五回)

てとてとてとてと

めとめとめ

てとてとてとてと

みみ はな くち

てとてをしなぎ

めとめを みあわせ

みみを すませし

しっかりと きこし

おいしい くうきを うひびく おひ

にこにこり わらうし

こんにちは

てとてとてとてと

めとめとめ

てとてとてとてと

みみ はな くち

てとてを つなぎ ありがとう

てとてを こめて ありがとう

おおきな こえで となえたら

てとてとてとてとてと つながった

てとてとてとてと

めとめとめ

てとてとてとてと

みみ はな くち

みんなの てとてとてとてと つながった

